

2021/6/13

(うと Q 世話し 役に立つなら何でも使おう)

元友人が自分のベンチャーで新しいシステムを開発した際、自分に

「もちろん世界初だ」

とやってきた事がありました。

最初は

「へえーすごいなあ」

と思いましたが、そのほんのゼロコンマ数秒後に

「んっ？」

と何か違和感を覚えました。

話は変わりますが、我が国では全くの無意識レベルで「新旧が良悪と混同視」されているような気がします。

守「旧」派と革「新」勢力等二代表される言い方に。

しかし冷静になって考えて見れば「旧い」中にもとても有用なものもあれば、確かに進化進歩の足を引っ張るものもある。

反対に「新しい」ものの中にもゴミの再生産みたいなものもあれば、未来に繋がるキラリと光るものもある。

であるなら大切なのは物事の「新旧」ではなく物事が今の我々にとって「有用か不用か」なのではないかな、と。

仮に「旧」の中の進化の足を引っ張るものと「新」の中のゴミの再生産部分を取り去り、今度は「旧」の中のとても有用なものと「新」の中の未来に繋がるキラリと光るものを抽出して組み合わせればとても良いものが出来るでは、とも思います。

一方新旧起算の世界初ならぬ「世界一」についても同様の事が言えそうです。

例えば世界一になったとして、なったその後はどうするのでしょうか？

変な話遣る事と言ったら「王座維持」の守りだけです。

上ではなく下ばかり見る事になります。

言い方は悪いですが「蜘蛛の糸」の「カンダタ」になってしまいます。

又々話は変わって

「葛飾北斎」

当時北斎は浮世絵界において日本一。浮世絵が日本にしかなかった事を勘案すれば世界一でもあった筈です（今も、でしょう）

当然功成り名を遂げて「分反り返って」居てもいい身分だったでしょう。

しかし彼は85歳を過ぎて尚「鶏の絵一つ満身に掛けない」と悔し涙を流し、仕事場の板張りを拳を上げてドンドン叩きつけたとか。

恐らく北斎が見ていたのは世界初や世界一というレベルのものではなく「ただ只管納得のいく絵が描きたい」という「次元を異にする目標目的（情動）」だったのではないでしょう

か。

相対的順位ではなく「自分にとっての絶対的納得(情動)」だったのではないかと思います。世界初や世界一は、たまたまその過程で「結果そういうポジションになっていた」だけという将に数多ある通過点の one of them のエピソードでしかない。

自分がそう述べたのではなく周りが気づいてそう言っただけの話。

「自分の興味外」

こうしてみると新旧の違いや世界初、世界一であるか否か等の record 価値や誰の手柄かと言った名誉争奪の話は「我々」にとってはどうでも良い話で、それによって「今や未来が良くなるのか否か」の貢献度合いにしか我々は関心がありません。

有用であれば古いものでも、世界 100 位でもかまわない。

「役に立つなら何でも使おう」

それを痛切に感じる現下「コロナ渦の日々」

「今渦からの脱出」を考えるに当たり益々その念を強くしております。